

Y10b 10年目のSaCRA望遠鏡：埼玉大学におけるさまざまな形態での教育利用や 星空観望会

大朝由美子, 金井昂大, 奥田大翔, 小柳香, 佐藤陸人, 中田伊織 (埼玉大学), 大島吾一, 高原佑典, 星久樹, 佐藤太基, 石橋遥子, 潮田和俊, 柴田吉輝, 小田達功, 平塚雄一郎, 石岡千寛, 大出康平ほか埼玉大学教育学部/大学院教育学研究科・理工学研究科天文学研究室 OB・OG

SaCRA望遠鏡は、さいたま市内のキャンパスの建物(高度約25m)に、2012年に設置された口径55cmの反射望遠鏡である。カセグレン焦点と主焦点の二つの焦点を持ち、SaCRA望遠鏡用に開発・製作した三波長同時偏光撮像装置”MuSaSHI”(潮田2016, Oasa et al. 2020)や中分散分光装置”SuSA_{no}O”と組み合わせて、系外惑星のトランジット、前主系列星などの変光探査等の学部・修士研究や、光・赤外大学間連携共同研究(OISTER)の拠点の一つとして、様々な観測にも貢献している。一方、観測的研究に加えて理科教員養成系の必修科目(地学実験)における観測研究体験、小中高校生や教員を対象とした実習や、地域市民への星空観望会にも活用されている。

埼玉大学教育学部/大学院理工学研究科天文学研究室では、SaCRA望遠鏡や小型望遠鏡等を用いて、毎月1-2回定期的に星空観望会を開催している。コロナ禍で実施できない時期もあったが、学外における出張観望会(星空宅急便)やリモート観望会を含め、2022年6月時点での実施回数は171回に及ぶ。これは、一研究室の定期観望会としては特筆すべき特徴である。この観望会は学内外への教育やアウトリーチ活動という位置付けだけでなく、教員養成系学部としての学生教育という側面もあり、主に学部生が企画の中心となって、大学院生/学部生らで運営・広報・観察指導が行なわれ、広く一般市民への教育普及活動について実践的に学ぶ機会としている。本講演では、観望会を含めたSaCRA望遠鏡の教育利用の実施状況や、今後の展望について報告を行なう。